

安積高校の思い出

東京桑野会副会長
東京桑野会140周年記念事業実行委員長

和田正哉

(七十七期)



昨年9月に母校は、創立140周年を迎え、昨年6月に、東京桑野会は、140周年記念事業を行いました。その実行

委員長として、微力ながらその大役を引き受け無事終了いたしました。

あれから早一年がたち、150周年に向かい、東京桑野会は、活性化の為に、色々と改革を行うべき、役員が苦勞しているところです。

私は安積高校で学んだ三年間を思い出すにつれて、自分はずっと運が良く、日々生かされている事に、感謝せずにはいられないし、感謝して生きております。

私は今年で(11月の誕生日) 80才になります。が、元気で、現役で働いております。健康には、気を遣っており、特に歯を大事にしており、入れ歯は一本も無く、全部自分の歯で、毎日おいしく食事を取っております。

運の良い事はたくさんありますが、その一つに、三年の時の担任の青木義孝先生(英語)との出会いがあります。先生は、私共を卒業させ

た翌年、福島女子高の英語の先生と御結婚されて、福島に移住されました。私が26才頃より、お盆の時期に、毎年先生の自宅で、お見合いを勧めてくれて、現在の女房は、先生の3人目の紹介で知り合い、結婚をしました。先生は、女房を教えた後に、福島大学の経済学部講師になり、助教授、教授、名誉教授を歴任され、91才の現在もお元気です。

三年前に77期で、喜寿のお祝いを郡山で行い、東京方面からも10人位参加して、総勢40数人でお祝いをしました。一学年300名だった同期が50人位亡くなっていました。

その中に山田広君がいます。私は理系、彼は文系だったのですが、三年の時に彼は理系を選択し、その為に私とは、一年より三年迄同じクラスとなり、家でも一緒に勉強する友達でした。その後彼は、外交官上級試験を受けて、見事ストレートで合格し、35才で、クウェートの代理大使、39才の時に外務省の初代原子力課長、40才で北米一課の課長として活躍し、これからという時に、42才で肝臓ガンで、アツという間に亡くなってしまいました。彼の母上の希望もあり、身内に入れて頂き彼の骨も拾いました。2025年現在、トランプの理不尽な関税政策等、国際情勢は、油断を許しませんが、彼も生きていれば、日本の外交政策にも多大な貢献をしたであろう人材だっただけに、彼の無念さ、くやしさを思うと、彼の分も長生きして、少しでも社会に貢献できればと思っています。

二年前千葉県野田市にある、宗教法人・正恵寺の要請を受け、明治天皇の玄孫で、ユーチューバーでも有名な竹田恒泰氏とご縁を頂き、日本で最初の「古墳式樹木葬」を含め4000坪の霊園を今年(2025年) 3月にリニューアル致しました。

野田市役所、環境保全課(保健所)との交渉は(①墓地埋葬法、②都市計画法、③建築基準法、④農地法、⑤その他の法律及び市の条例等)困難をきわめました。開拓者精神を持ってねばり強く交渉し、無事経営許可証が取れました。古墳式の中には、鳥居も建立され、地元の櫻木神社(平安時代より続いている)とも提携し、神・仏一体の霊園が開園しました。そのお陰で、墓地の購入者は、神式・仏式の法要法要が出来る様になりました。

母校での三年間は、良い恩師、良い同期の仲間にも恵まれ、60年以上たった今も交流し、たまには会って、杯をくみかわしています。

今でも40年以上にわたり愛読している、月刊紙「知致」には、人生の困難な時に、助けられたと感じております。後輩の諸氏には、現在のPC及びスマートフォン等日進月歩の電子機器以外に、忙しいあい間に月に一冊位は、自分の人生の為に本を読む事を強くおすすめ致します。実効すれば必ず将来何らかの形で役に立つはず。安積高校150周年に迎い、健康で少しでも皆様のお役にたれたいと思っている今日この頃です。

有難う御座居ました。